

## 第2回先端的都市研究拠点国際実践セミナーを開催

### 2nd International Practice Seminar of Platform for Leading-Edge Urban Studies

都市研究プラザは、東アジア諸国において都市を基盤として研究活動を推進している諸機関や、都市問題の解決に向けた実践に取り組んでいる諸団体との交流に注力してきた。東アジア諸国の都市は、それぞれに特色を有しつつも、グローバル化の進展の下での社会的排除に関連したいくつかの共通した問題に直面していることを踏まえれば、それぞれの都市における諸経験を突き合わせることで、問題を解決に導く早道であると考えられるからである。

この一環として、2016年8月に第1回「国際実践セミナー」を韓国ソウルにて実施した。このときは、若手研究者に自らの研究の発展に繋がるよう視野を広げてもらうという意図のもと、都市研究プラザの若手研究者を派遣した。このたび第2回を台北で開催するに当たり、都市間交流を促進する研究者のみならず大阪府下の都市自治体職員にも参加をお願いすることにした。年度末の多忙な折、大阪市、八尾市、堺市から1名ずつ参加いただき、総勢19名のにぎやかなツアーとなった。

3月26日の午前は、台北市都市開発局住宅企画課にて公共住宅施策の変遷について受講した。午後は、耕心蓮苑教育基金會と愛一家親を訪問し、社会的不利地域の教育活動とコミュニティレストランを視察したのち、輔仁大学社会企業研究センターを訪問し社会的企業について議論した。27日の午前は、台北市社会事務局萬華事務所を訪問し、公的なホームレス支援について受講した。午後は、芒草心慈善協会を訪問し民間のホームレス支援を視察したのち、崔媽媽基金による賃貸管理代行の活動について受講した。28日の午前には政府の原住民委員会を訪問し、先住民族に対する公的支援について受講した。午後は、南機場コミュニティ団地再生活動を視察した。後日、参加者による報告をURPレポートシリ  
(次頁に続く)

From 26th to 29th March the "2nd International Practice Seminar" was held in Taipei. A total of 19 people, involving URP researchers and government officials, participated. During the seminar related sites or offices of community revitalization and homeless support projects, public housing policies and social enterprises were visited. In preparation for this event on the 26th February the "Urban Government Network Seminar and Course for Leading-Edge Cities" with the topic "Understanding contemporary Taiwan from Japan" was conducted for the 5th time.



輔仁大学社会起業研究中心 (3月26日)



原住民委員会 (3月28日)



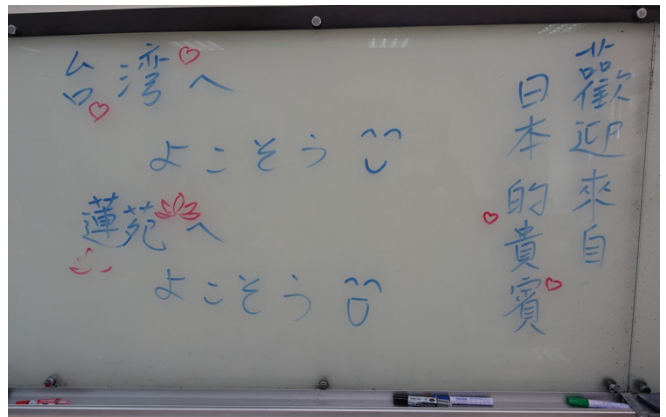
南機場コミュニティ団地再生活動視察 (3月28日)

ーズとして公表する予定なので、詳細についてはこちらを参照されたい。

本セミナーに先立ち2月26日には、台湾を訪問するに当たり不可欠な予備知識を仕入れておくために、第5回「都市行政ネットワークセミナー兼先端都市学講座」を開催した。テーマは「日本人が今の台湾を理解するために必要なこと」。ジャーナリストの野島剛氏に台湾の現代史に関する講演をいただいた。近年、台湾の学生運動や政権交代が日本でも話題になったが、民衆の政治参加の息吹が感じ取れるような内容だった。そして今回、台北のさまざまな実践の現場に足を踏み入れたところ、果たしてその情熱や活気を実感できた。今後とも都市研究プラザは、国内の関連研究者コミュニティや海外の連携機関とともに、都市間交流を媒介するプラ

ットフォームの構築を目指していく。

■綱島洋之（URP 特任講師）



耕心蓮苑教育基金會（3月26日）

## 共同研究プロジェクトの発足 Launching of Collaborative Research Projects

都市研究プラザでは、2018年1月より、いずれも本学の教員を代表者とする12の共同研究プロジェクトを発足させた。各プロジェクトの研究テーマと代表者は、以下のとおりである。

- ①生物多様性と文化コミュニケーションを組み込んだ都市生態学の新展開（代表者：岡野浩）
- ②現代資本主義と都市の変容（代表者：立見淳哉）
- ③人口減少・超高齢社会における都市政策・都市行財政（代表者：阿部昌樹）
- ④文化的多様性の承認と社会的包摂に向けた東アジア都市間対話（代表者：全泓奎）
- ⑤包容力ある都市論の構想に関する包括的研究（代表者：水内俊雄）
- ⑥近世地域社会史の研究——都市大坂と和泉地域（代表者：塚田孝）
- ⑦多民族（多文化）共生社会と包摂型アート&アーツマネジメント（代表者：中川眞）
- ⑧臨床音楽学研究——知的障害者を含む音と言葉による対話の場の構築（代表者：沼田里衣）
- ⑨災害後の文化（特に芸能）の二次創作に関する実践研究（代表者：橋本裕之）
- ⑩多世代共生型地域再生のための障害者支援モデルの開発（代表者：内田敬）
- ⑪建築ストックの活用によるレジリエントな都市再生——大阪長屋と近代建築を対象に（代表者：藤田忍）
- ⑫災害や機能不全に対するレジリエントなコミュニティづくりや住まい方に関する研究（代表者：横山俊祐）

いずれも、重要な研究テーマを対象としたものである。それぞれのプロジェクトが自立的に共同研究を推進するとともに、相互に刺激し合うことによって、本学の都市研究の進展に大きく寄与することを期待している。また、本年度以降に都市研究プラザが採用する特別研究員（若手）には、その者の個人としての研究を一層進展させるとともに、いずれかのプロジェクトに参加してもらうことにより、共同研究の経験を積んでもらうようにしたいと考えている。なお、これらのプロジェクトに、都市研究プラザとして資金面での援助を行うことは予定していない。むしろ、それぞれのプロジェクトが、外部資金の獲得に積極的に取り組むことを強く期待している。

都市研究プラザは、2014年4月に文部科学省により「共同利用・共同研究拠点」の一つとして認定されて以来、学外の研究者を代表者とする共同研究プロジェクトを公募により採択し、支援する取り組みを継続してきたが、今後は、この「公募型共同研究」とともに、新たに立ち上げた12の共同研究プロジェクトが、都市研究プラザにおける都市研究の牽引役となっていくはずである。

■阿部昌樹（URP 所長／法学研究科教授）

At the Urban Research Plaza, 12 collaborative research projects, all headed by researchers from Osaka City University, were launched since January 2018. Each of these projects independently proceeds collaborative research on a topic with high significance. It is expected that the projects will stimulate each other to conduct interesting research, and make major contributions to the further development of urban research at Osaka City University.



大阪市立大学都市研究プラザ先端的都市研究拠点・第2回URP特別研究員（若手・先端都市）合評会  
**Osaka City University's Urban Research Plaza (Platform for Leading-Edge Urban Studies)**  
**2nd Annual Workshop for URP Special Researchers (Young, Leading Edge Urban Studies)**

3月14日（水）、高原記念館1F研究交流スペースにて、2017年度第二回目となるURP特別研究員（若手・先端都市）による合評会が開催された。

第一セッションでは、森瑞季氏が、労働統合型社会的企業における調査の途中経過と今後の展望を発表し、水野延之氏は、フランス革命期におけるマルセイユの定住外国人移民について、移民集住地区「セクション17」を軸に報告を行った。高橋康史氏は、家族に犯罪者がいる人々の語りをとおして、都市と脱家族化の関連性について考察をし、黒澤悠氏は、自身の経験をふまえ、地方自治体における福祉業務の問題点を論じた。

第二セッションでは、吉元加奈美氏が、豪商の動向等も踏まえた天保改革に伴う幸町の変化について報告し、アサダワタル氏は、アクションリサーチをとおして、「ケア」の現場に於ける第三者の意義を指摘し、彌吉恵子は、イタリアで移民の精神医療に携わる人々の実践を論じた。最終セッションでは、Wong Tammy Kit Ping氏が、Dongguanの都市化について、工業都市と村の構造を中心に解説し、Romic Ivan氏は、2014年度経済センサス-基礎調査報告を用いて大阪市の経済的多様化を分析する研究について報告した。

締めくくりに、Jimenez Joselito Ranara氏は、大阪市のフィリピン人移民が経験する排除を、就業に関する語りから分析した。今回は、規定時間をオーバーするほど熱心な発表が多かったうえ、質疑応答も活発であった為、合評会は予定よりも大幅に遅れて終了した。

■彌吉恵子（URP特別研究員〔若手・先端都市〕）

On the 14th March 2018 the “2nd Annual Workshop for URP Special Researchers (Young, Leading Edge Urban Studies)” of the year 2017 was held. At the workshop ten researchers presented the results of their extensive research in three separate sessions.

Although the content was multidisciplinary and wide-ranging, presentations about marginalized people, especially immigrants, were prevailing. Because of several passionate presentations, that exceeded the time limit and raised many questions, the workshop ended with considerable delay.



▼2017年度第2回URP特別研究員（若手・先端都市）合評会

□開催挨拶

阿部昌樹（URP所長）

□Session1

- ・森瑞季：「ある労働統合型社会的企業での調査の経過報告—手法への福祉的言及も踏まえて—」
- ・水野延之：「フランス革命期マルセイユと移民—セクション17を中心に—」
- ・高橋康史：「都市におけるマイノリティとスティグマ—家族に犯罪者をもつ人びとの語りから—」
- ・黒澤悠：「認知資本主義化と地方自治体業務の変容」

□Session2

- ・吉元加奈美「天保改革に伴う茶屋の展開—幸町に即して—」
- ・アサダワタル：「表現的实践を通じた「ケア・支援観」の変遷にまつわる研究—大阪府堺市 kokoima でのアクションリサーチから—」
- ・彌吉恵子：「Mental Health Services for Migrants in Contemporary Italy」

□Session3

- ・WONG Tammy Kit Ping :  
「Territorialisation of extended urbanization: the case study of Dongguan's an industrial town and villages」
- ・ROMIC Ivan :  
「Multidimensional Analysis of Economic Diversity in Osaka City: Examples and Results」
- ・川口夏希：「社会連帯経済の空間性：参加型ウルバニズムとの合流」
- ・JIMENEZ Joselito Ranara :  
「Some empirical evidence of conflict and exclusion among Filipino migrants in Osaka City」

司会・タイムキーパーはコルナトウスキ・ヒェラルド（URP特任講師）、綱島洋之（URP特任講師）、鄭榮鎮（URP特任助教）が交替して務めた。

## 都市創造性コラム 2

### Column for Urban Creativity 2

Innovation and identity in next generation smart cities

Edited by Hoon Han, Scott Hawken

*City, Culture & Society (CCS)*, Volume 12, Pages 1-62 (March 2018)

CCSの副編集長でシドニーのNSW大学准教授 Hoon Han 氏ほかによる特集号(2018年3月号)を取り上げる。「第1世代のスマートシティ論では、デジタル技術とビジネスの可能性に関する研究が重視されてきたが、IT技術やビジネススペースの議論(AIやIoT、インターネットビジネスほか)のみで十分か?」という問いかけから、「第二世代のスマートシティ論」につながる6論文を掲載した。

そこでは、都市のアイデンティティ、品質、価値観を幅広いスケールや地理的背景で強化するという実践的課題に関連させながら、「リアルタイムのデータ」いいかえれば「都市が依拠する組織・政策の関連性全体を視野に入れたアクションベースの(生きた)データ」に基づく政策立案の重要性が叫ばれている。一つの政策が及ぼす社会的影響を見越して素早く手を打つ必要があるとし、ビックデータを越えたものとして「アクションベース・データ」を提起する。以下、各論文で展開されている内容についてキーワードを列挙してみよう。

**ガバナンスと都市データプラットフォーム、デジタルな職場と将来の仕事、スマートシティ政策と新しい経済ガバナンス、データと情報のエコシステムとアイデンティティ、デジタルなツールとシステム、人間中心の創造的アプローチ、参加型の都市システム**

1. **Smart cities and urban data platforms: Designing interfaces for smart governance:** Sarah Barns
2. **Planning support systems for smart cities:** Christopher Pettit, Ashley Bakelmun, Scott N. Lieske, Stephen Glackin, Peter Newman
3. **Smart cities and digital workplace culture in the global European context: Amsterdam, London and Paris:** Michelangelo Vallicelli
4. **Urban innovation through policy integration: Critical perspectives from 100 smart cities mission in India:** Sarbeswar Praharaj, Jung Hoon Han, Scott Hawken
5. **Blending pop-up urbanism and participatory technologies: Challenges and opportunities for inclusive city making:** Joel Fredericks, Luke Hespanhol, Callum Parker, Dawei Zhou, Martin Tomitsch
6. **SMLXL: Scaling the smart city, from metropolis to individual:** Nicole Gardner, Luke Hespanhol

■岡野浩 (URP 教授/CCS マネジングエディター)

This special issue of *City, Culture & Society (CCS)*, Volume 12 (March 2018) considers identity and urban culture as central to the smart city challenge. Current discourse on smart cities is obsessed with technological capability and development. Each paper critiques smart city theories in relation to the practical challenge of enhancing urban identity, quality and value at a range of scales and geographic contexts. Three main themes are used to frame the debate on smart cities and urban innovation: 1) local development histories, 2) face-to-face relationships and 3) local community scales.

CCS データ (2018年4月6日現在)

- CiteScore: 0.69
- Source Normalized Impact per Paper (SNIP): 0.801
- SCImago Journal Rank (SJR): 0.335

## URP先端的都市研究ブックレットシリーズ・『関西都市学研究』発行

URP Leading-Edge Urban Studies Booklet Series · Kansai Urban Studies



都市研究プラザは2014年に文部科学省「共同利用・共同研究拠点」としての認定を受けた。その一環として、これまでプラザが蓄積してきた研究やさまざまな資源を、地域や一般社会、全国の研究機関などと共有/協力すべく共同研究事業に取り組み、都市研究における先端的取り組みをスケールアップしていくための連携型拠点として整備をはかっている。このたび、その成果として、先端的都市研究ブックレットシリーズを刊行した。

また、URP 特別研究員の自主的な研究企画として実施してきた「包摂型社会研究会」では、「社会的包摂」を切り口として研究や実践に取り組んできたが、その成果として、2017年に引き続き、『関西都市学研究』を刊行した。

■鄭栄鎮 (URP 特任講師)

\* ご関心のある方は下記までご連絡ください。ただし、部数に限りがありますので、ご希望に添えない場合があることをご了承ください。

連絡先: 先端的都市研究拠点事務局

joint\_office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

**URP**   
Osaka City University | Urban Research Plaza  
大阪市立大学 | 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が2006年4月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 tel.06-6605-2071

e-mail: office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

所長 阿部昌樹 副所長 全泓奎 林久善

ユニット長 1U 阿部昌樹 2U 嘉名光市 3U 水内俊雄 4U 岡野浩

大阪市立大学都市研究プラザ ニュースレター 第39号

編集長(発行責任者) 阿部昌樹

副編集長 全泓奎 水内俊雄 岡野浩

編集主幹 鄭栄鎮 波床尚美

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp>